

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 30 年 6 月 4 日現在

機関番号：34504

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2017

課題番号：15K02447

研究課題名(和文) 二〇世紀中国演劇上演実態の「記録」に関する研究 - メディアとの影響関係を中心に

研究課題名(英文) A Study on "Record" about Actual stage of Chinese Theater in the 20th Century:
Focusing on the Influence of Media

研究代表者

藤野 真子 (FUJINO, Naoko)

関西学院大学・商学部・教授

研究者番号：20332653

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、「記録」という概念に基づき、新聞や雑誌に掲載された劇評などの文字資料と画像・音声資料を用い、メディアと二〇世紀中国伝統劇の多様な影響関係を明らかにした。研究を進めるにあたっては、日本、中国、台湾の図書館、資料館において各種資料の調査を行った。また国内外のシンポジウムで研究成果の発表を行った。見落とされてきた重要な「記録」を見いだすことにより、中華民国伝統演劇史の不備を補ったことが本研究の成果である。

研究成果の概要(英文)：This study based on the concept of "record", clarified the various effect relationship of media and Chinese traditional drama in the 20th century, and it is conducted using documents (such as stage review that was published in the newspaper or magazine), images and audio materials. In order to advance this study, we investigated the various literatures in library and archive of Japan, China and Taiwan. And we made presentations at conference of Chinese drama at home and abroad. Achievement of this study is making up for deficiencies of Republic of China of traditional theater history by finding the important "records" that had been buried.

研究分野：中国文学

キーワード：中国演劇

1. 研究開始当初の背景

(1) 我が国の中国伝統演劇研究は多角的に展開しており、1990年代後半以降相当数の研究が蓄積された。本研究の研究代表者および研究分担者は、「京劇史研究会」の活動を中心に、近現代伝統演劇資料の訳注と伝統演劇関連研究の発表を柱とし、継続的な活動を行ってきた。これまでも基盤研究(C)「新中国建国前後における伝統劇の多角的研究」(平成18・19年度科学研究費補助金、課題番号:18520273、研究代表者:松浦恆雄)、基盤研究(C)「二〇世紀中国演劇における「記録」とメディアの多角的研究 劇評・新聞・図像を中心に」(平成24~26年度科学研究費助成事業、課題番号24520412、研究代表者:藤野真子)を通じ、二〇世紀前半の中国演劇の諸相を明らかにしてきた。

(2) 上述の研究活動を経て、二〇世紀中国伝統演劇の諸相を立体的に浮かび上がらせるにあたり、メンバー各自が文字資料のみならず、写真、映像、音声を材料として分析することの重要性を感じるに至った。研究代表者の藤野は様々な形式を用いた演劇の「記録」に着目し、中華民国期の上海京劇・地方劇の発展を考察する際、メディアとの関係が看過できないことを指摘してきた。研究分担者は、松浦が戯単・戯考・特刊、およびラジオなど音声メディアにおける演劇的言説、田村が言説空間としての小新聞に集う人的ネットワークによる演劇の記録状況、三須が小新聞の新興地方劇発展において果たした機能、平林が劇場および周辺の人々が新聞・雑誌と連携しメディアの機能を獲得する過程をそれぞれ研究してきた。各自の研究テーマを踏まえ、成果を統合することで、メディアによる二〇世紀中国演劇の「記録」をマクロな視点から整理し、新たな史的枠組みの構築を目指すものであった。

2. 研究の目的

(1) 演劇を「記録」する主体の変遷と「記録」手段・内容の解明: 清末~中華民国初期に形成された本格的な「批評言語」の実体について、新聞・雑誌等の同時代資料を用い解明を進める。また写真や絵画などより直接的な「記録」に残された演目やシーンを判断・特定、「記録」の実態と意義を解明することで、「記録」する側の背景と彼らが備えていた批判性を浮き彫りにする。

(2) 演劇の「記録」が舞台に及ぼした各種影響の解明: 出版メディアの発展に伴い、発信力を備えるに至った「記録」としての劇評が、実際の上演現場にいかなる影響力を持ったかを考察する。同時に情報発信の増加および多様化により、「記録」の担い手が広範化・大衆化し、その言論が演劇界に大きな影響力を持つ。このメカニズムを、新聞、雑誌、映画、レコード、ラジオなどのメディアとの相

関性に留意し解明していく。

(3) 演劇「記録」発表媒体の多様化とその流通形態の解明: 演劇の「記録」は、多くが新聞や総合文芸誌に発表される。1920年代に演劇専門誌(紙)の刊行が始まるが、総合文芸誌(紙)における「記録」の収集と検討は不十分である。本研究では多分野の出版物に注目し、上海、台湾等での現地調査を通じ、民国伝統演劇史の不備を補う「記録」を発掘する。また演劇関連叢書の編集方針や出版意図を分析し、最終的には受容者たる「読み手」と演劇の「観客」との相関性を考察する。

3. 研究の方法

(1) 定例研究会の開催(各年5回): 研究成果・研究情報の共有、読書会、研究打ち合わせ。

(2) 資料調査の実施: 中国・上海図書館近代文献部、上海市档案馆、北京首都図書館、台湾・中央研究院における資料調査の実施。

(3) 収集資料のデータベース化および関連論考の紙媒体・WEB上における発表。

(4) 国内外研究機関および研究者との連携: 早稲田大学演劇博物館、南京大学(中国南京)と連携、国際的評価に耐えうる研究水準を維持し、成果を発信する。また、研究期間中に南京大學等との京劇関連国際学術シンポジウムを開催し、報告。

4. 研究成果

(1) 演劇を「記録」する手段の分析に関しては、劇評のような文字資料のみならず、戯単などエフェメラ資料を重視し、各々の特質と役割を分析した。以下主要な成果として、前者は上海京劇・越劇の展開における文字メディアの意義を分析した藤野の論考「民国時期的「麒派文化」」、「民国期における商芳臣の活動と評価」および松浦の論考「新越劇と観客を結ぶメディア」が、後者は戯単の整理と分類、および研究上の有効性を論じた三須の口頭発表「上海演劇資料のデジタル・アーカイブ化の試みとその応用」、「戯単から見る上海地方劇: 新中国建国前後の滬劇を中心に」が挙げられる。また、他の文芸様式、特に映像(映画)による演劇の「記録」の実態を分析した論考として、藤野の「周信芳と『新経堂』- 舞台の映画化に関する一考察 -」、「三須の「從《秋海棠》到《紅伶淚》: 現代中国文芸作品中的跨界與男性形象的“漂移”」が挙げられる。

(2) 演劇の「記録」が舞台に及ぼした各種の影響に関して多方面から検討を行った。以下、主要な成果として、日本人辻聴花と北京での女優劇発展との相関性を論じた田村の論考「1915年北京的坤劇と辻聴花」、さまざま

まな「記録」が劇種間での情報交換を促す状況を論じた田村の論考「「孤島」期上海における劇種間の相互連関について」、三須の論考「申曲與京劇的影響關係」が挙げられる。また平林は文化圏を跨ぐ「記録」のあり方を分析した論考として「1919年梅蘭芳訪日演出的“始”與“末” - 古装新戲《天女散花》與大倉喜八郎」、「1919年梅蘭芳訪日之前日人對於京劇的認識與其變遷」を發表している。

(3) 多様な出版メディアの調査分析を踏まえ、民国伝統演劇史の不備を補う「記録」の発掘を試みた。従来十分に論じられていない、もしくは注目されてこなかった「記録」を抽出し検討した論考として、新たな古典を目指した古装戲の実態を詳細に論じた平林の「古装新戲與京劇国粹化 - 1910年代京劇の新、旧、古」、梅蘭芳のブレインであった齊如山が中国本土を離れ台湾で「国劇」のあり方を模索した田村の「台湾時期的齊如山：如何建構從來未存在的“国劇”」、近代的なセリフ劇である話劇と伝統劇との相互關係を論じた松浦の「梅蘭芳訪蘇と中国話劇界」、越劇の周縁にあった老生の重要性に着目した藤野の「民国期における商芳臣の活動と評価」が挙げられる。

(4) 独自のシンポジウム開催はかなわなかったが、各自が国内外で積極的に本研究課題の成果として口頭発表を行った。特に平林は海外の演劇シンポジウムにおいて、メディアとの關係構築の嚆矢となった梅蘭芳に関し、「梅蘭芳古装新戲與文明戲 試探文明戲對於梅蘭芳古装新戲的影響關係」、「梅蘭芳古装新戲與與民初上海劇壇 試探民初上海劇壇對於梅蘭芳古装新戲的影響關係」といった口頭発表を行った。また武漢大学にて開催された“漂泊与越境：東亜視域中の作家流徙与文学創生”国際學術工作坊において、本研究課題に基づくセッションを形成、藤野が周信芳の名作の映像化を論じた「周信芳与『斬経堂』：搬上銀幕的京劇」、田村が台湾に渡った齊如山の活動を論じた「台湾時期的齊如山」、三須がジャンルを超えて描かれる男性形象を論じた「從《秋海棠》到《紅伶淚》：現代中国文芸作品中的跨界與男性形象的“漂移”」と題した口頭発表を各々行い、中国側の研究者と意見交換を行った。他方、国内でも大阪市立大学中国学会において民国期中国演劇に関する小シンポジウムを実施、松浦が「伝統演劇の現代化を見直す」、三須が「上海都市文化史から見た「海派京劇」」と題した口頭発表を各々行い、参加した国内の伝統演劇研究者と討論を行った。

(5) 本研究による知見を踏まえ、古い上演形態を残す民間の越劇劇団に関する著作である傳瑾『草根的力量』を分担して翻訳、刊行の準備が整っている。

(6) 平林は本研究で得られた知見を反映させた翻訳書『中国演劇史図鑑』(共著)を刊行した。また同書内に、演劇の視覚的「記憶」に着目した論考「描かれた中国演劇 - 近代日本人の中国演劇への視線」を掲載した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計16件)

松浦恆雄、新越劇と観客を結ぶメディア、伝統芸能の近代化とメディア環境、査読無、1巻、2018年、pp.91 - 109

平林宣和、描かれた中国演劇 - 近代日本人の中国演劇への視線、中国演劇史図鑑、査読無、1巻、2018年、pp.300 - 305

平林宣和、1919年梅蘭芳訪日之前日人對於京劇的認識與其變遷、新潮演劇與中国戲劇的現代性追求、査読無、1巻、2017年、pp.165 - 173

三須祐介、從《秋海棠》到《紅伶淚》：現代中国文芸作品中的跨界與男性形象的“漂移”、武漢大学“漂泊与越境：東亜視域中の作家流徙与文学創生”国際學術工作坊論文集、査読無、1巻、2017年、pp.125 - 133

田村容子、台湾時期的齊如山：如何建構從來未存在的“国劇”、武漢大学“漂泊与越境：東亜視域中の作家流徙与文学創生”国際學術工作坊論文集、査読無、1巻、2017年、pp.116 - 124

藤野真子、周信芳与『斬経堂』：搬上銀幕的京劇、武漢大学“漂泊与越境：東亜視域中の作家流徙与文学創生”国際學術工作坊論文集 査読無 1巻 2017年 pp.106 - 115

松浦恆雄、梅蘭芳訪蘇と中国話劇界、野草、査読有、第99号、2017年、pp.1 - 29

藤野真子、周信芳と『斬経堂』 - 舞台の映画化に関する一考察 -、商学論究、査読無、第64巻第6号、2017年、pp.107 - 125

藤野真子、21世紀における中国演劇の資料と研究 - 近現代の伝統劇を中心に -、中国 - 社会と文化、査読無、第31号、2016年、pp.195 - 205

藤野真子、民国期における商芳臣の活動と評価、商学論究、査読無、第63巻第4号、2016年、pp.135 - 151

平林宣和、古装新戲與京劇国粹化 - 1910年代京劇的新、旧、古、新潮演劇與新劇の発生、査読無、1卷、2015年、pp.16 - 29

田村容子、「孤島」期上海における劇種間の相互連関について、漂泊の叙事 一九四〇年代東アジアにおける分裂と接触、査読無、1卷、2015年、pp.479 - 508

田村容子、1915年北京の坤劇与辻聴花、梅蘭芳与京劇の伝播(上・下) 第五届京劇学国際學術研討会、査読無、下卷、2015年、pp.961 - 978

三須祐介、申曲與京劇的影響關係、梅蘭芳与京劇の伝播(上・下) 第五届京劇学国際學術研討会、査読無、下卷、2015年、pp.917 - 926

藤野真子、民国时期的「麒派文化」、梅蘭芳与京劇の伝播(上・下) 第五届京劇学国際學術研討会、査読無、下卷、2015年、pp.799 - 806

平林宣和、1919年梅蘭芳訪日演出的“始”與“末” - 古装新戲《天女散花》與大倉喜八郎、梅蘭芳与京劇の伝播(上・下) 第五届京劇学国際學術研討会、査読無、上卷、2015年、pp.435 - 443

[学会発表](計17件)

松浦恆雄、新越劇と観客を結ぶメディア、公開報告会・演奏会「伝統芸能の近代化とメディア環境」、2018年3月24日、大阪市立大学学術情報総合センター(大阪府大阪市)

平林宣和、梅蘭芳古装新戲與民初上海劇壇 試探民初上海劇壇對於梅蘭芳古装新戲的影響關係、2018 CHINOPERL CONFERENCE、2018年3月22日、Marriott Wardman Park Hotel (ワシントンDC、アメリカ)

平林宣和、梅蘭芳古装新戲與文明戲 試探文明戲對於梅蘭芳古装新戲的影響關係、第四届清末民初新潮演劇国際學術研討会、2017年11月8-10日、上海戲劇学院(上海市、中国)

三須祐介、「秋海棠」から「紅伶淚」へ：移ろう“男性性”をめぐって、日本現代中国学会第67回全国學術大会、2017年10月29日、愛知大学(愛知県名古屋市)

三須祐介、從《秋海棠》到《紅伶淚》：現代中国文芸作品中的跨界與男性形象的“漂移”、“漂泊与越境：東亞視域中的作家流徙与文学創生”国際學術工作坊、

2017年9月9日、武漢大学(武漢市、中国)

田村容子、台灣时期的齊如山、“漂泊与越境：東亞視域中的作家流徙与文学創生”国際學術工作坊、2017年9月9日、武漢大学(武漢市、中国)

藤野真子、周信芳与『斬經堂』：搬上銀幕的京劇、“漂泊与越境：東亞視域中的作家流徙与文学創生”国際學術工作坊、2017年9月9日、武漢大学(武漢市、中国)

三須祐介、戲単から見る上海地方劇：新中国建国前後の滬劇を中心に、立命館大学国際言語文化研究所 2017年度萌芽のプロジェクト B7 アジアにおける技術・芸術と社会のダイナミクス第3回研究会、2017年7月24日、立命館大学(京都府京都市)

三須祐介、上演パンフレットのデジタル・アーカイブ化：中国上海地域の演劇を例に、演劇アーカイブの最前線：イギリスと中国、2017年6月17日、九州大学伊都キャンパス(福岡県福岡市)

松浦恆雄、玉蘭劇団の六年、演劇アーカイブの最前線：イギリスと中国、2017年6月17日、九州大学伊都キャンパス(福岡県福岡市)

田村容子、梅蘭芳を描いた日本人：福地信世、第一回国際シンポジウム 中日比較の視点から始まる日本研究(招待講演)、2017年3月25日、華南師範大学日本研究国際交流センター(広州市、中国)

平林宣和、1919年梅蘭芳訪日之前日人对于京劇的認識與其變遷 - 試探 1917年梅蘭芳與日本社会的首次邂逅 - 、2017 CHINOPERL CONFERENCE、2017年3月16日、Sheraton Centre Toronto Hotel (トロント市、カナダ)

三須祐介、海演劇資料のデジタル・アーカイブ化の試みとその応用、東アジア演劇研究におけるデジタル・ヒューマニティーズの可能性、2017年2月20日、立命館大学(京都府京都市)

平林宣和梅蘭芳古装新戲與“電光”的世紀 試探梅蘭芳《天女散花》与洛伊·富勒的“電光舞”之關係、梅蘭芳精神及伝播国際學術研討会、2016年10月25日、中国芸術研究院(北京市、中国)

三須祐介、上海都市文化史から見た「海派京劇」、第七十七回市大中国学会、2015

年12月5日、天王寺あべのメディクス(大阪府大阪市)

松浦恆雄、伝統演劇の現代化を見直す、第七十七回市大中国学会、2015年12月5日、天王寺あべのメディクス(大阪府大阪市)

平林宣和、1919年梅蘭芳訪日之前日人对京劇的認識與變遷、第三回清末民初新潮演劇国際シンポジウム、2015年11月28日、杭州師範大学(杭州市、中国)

〔図書〕(計1件)

中国芸術研究院戯曲研究所編、岡崎由美/平林宣和/川浩二 監修・翻訳、国書刊行会、中国演劇史図鑑、2018、326

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

藤野 真子 (FUJINO, Naoko)
関西学院大学・商学部・教授
研究者番号：20332653

(2) 研究分担者

松浦 恆雄 (MATSUURA, Tsuneo)
大阪市立大学・文学研究科・教授
研究者番号：20173792

平林 宣和 (HIRABAYASHI, Norikazu)
早稲田大学・政治経済学術院・教授
研究者番号：40271358

三須 祐介 (MISU, Yusuke)

立命館大学・文学部・准教授
研究者番号：60339653

田村 容子 (TAMURA, Yoko)
金城学院大学・文学部・教授
研究者番号：10434359

(3) 連携研究者

()

研究者番号：

(4) 研究協力者

()